

## 平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区 分	指導	題名	りんどう極早生種 キュースト の半促成栽培における栽培特性		
[ 要約 ] りんどう極早生種 キュースト は、半促成栽培における県北地域での採花期は 6 月下旬となり、露地栽培に比べ 25 日程度早まる。また、株の生産力は 2 年程度維持でき 早生 3 などの既存品種と同等である。					
キーワード	キュースト	採花期	作期前進	県北農業研究所 園芸研究室	

### 1 背景とねらい

りんどうの作期を前進させる作型は昭和 57 年に確立されたもので、パイプハウスやミニパイプハウスを使う促成栽培や半促成栽培がある。平成元年には県北地域での技術が確立され、九戸村を中心に半促成栽培が取り組まれている。

そのような中、平成 16 年に極早生種 キュースト が開発されたが、本作型における栽培特性は未検討である。

そこで、県北地域において極早生種 キュースト を半促成栽培した時の採花期等の栽培特性を明らかにする。

### 2 成果の内容

- (1) りんどう極早生種 キュースト の採花期は、パイプハウスによる半促成栽培では 6 月下旬となり、露地栽培に比べ 25 日程度前進する。また、早生種 早生 3 の半促成栽培に比べると 12 日程度前進する (表 1)。
- (2) 半促成栽培における キュースト は規格品割合が低下することにより株の生産力は 2 年程度であり、早生 3 などの既存品種と同等である (表 2)。

### 3 成果活用上の留意事項

- (1) 軽米町山内 (標高 240m) において、半促成栽培については保温管理を 3 重被覆で行い、4、5 年生時の施肥は液肥のみで管理した結果である (図 1)。
- (2) 平成 19 年に キュースト より開花期の早い極早生種が開発され、県北地域でも露地栽培で 7 月中旬から採花できるようになった。さらに、7 月上旬の新盆需要期に対応するため、半促成栽培に比べ簡易なトンネル程度の被覆法による作期前進方法について今後検討する予定である。

### 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者：県北地域におけるりんどう産地の指導者
- (2) 期待する活用効果：県北地域において作期前進を図る際の参考となる。

### 5 当該事項に関する試験研究課題

- (H17-22) 県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立
  - (1000) りんどうの有望系統の現地適応性試験 [ H17 ~ H21 / 県単 ]
  - (2000) りんどうの長期継続出荷のための早出し栽培技術の開発 [ H17 ~ H21 / 県単 ]

### 6 研究担当者 川戸善徳

### 7 参考資料・文献

- (1) 吉池貞蔵編．1992．花専科 育種と栽培 リンドウ．誠文堂新光社
- (2) 昭和 57 年度 指導上の参考事項「りんどう半促成栽培での保温方法による開花促進効果」
- (3) 平成元年度 指導上の参考事項「早生系りんどうの春期ビニール被覆による採花期の前進」
- (4) 平成 16 年度 試験研究成果「品種 7 月中旬に開花するりんどう「極々早生 1」」

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 年次別採花期の推移（H19～21）

品種	株齢（年）	ハウス半促成栽培			露地栽培 <sup>1</sup>		
		始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
キュースト	3年生（H19）	6/19	6/25	7/ 3	7/13	7/20	7/26
	4年生（H20）	6/21	6/27	7/ 5	7/19	7/22	7/26
	5年生（H21）	6/18	6/26	7/ 5	7/16	7/20	7/26
早生3	3年生（H19）	6/29	7/ 7	7/14	7/30	8/ 5	8/16
	4年生（H20）	7/ 1	7/11	7/17	7/31	8/ 7	8/16
	5年生（H21）	6/27	7/ 7	7/15	8/ 1	8/ 7	8/12

1; 露地栽培は、キューストは4～6年生、早生3はマジェルの2～4年生のデータ。

2; 保温開始時期 H19,20;1/30 H21;1/15

表2 年次別切り花品質の推移（H19～21）

品種	株齢（年）	切り花長 (cm)	節数 (節)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	花段数 (段)	規格別割合 <sup>1</sup> (%)			
							L品	M品	S品	規格外
キュースト (半促成)	3年生（H19）	102.7	21.7	4.3	51.3	4.6	40.0	6.7	0.0	53.3
	4年生（H20）	115.0	22.7	4.5	51.9	4.4	43.3	10.0	0.0	46.7
	5年生（H21）	112.9	23.1	4.0	38.1	4.2	23.3	0.0	0.0	76.7
キュースト (露地)	3年生（H18）	100.2	21.5	4.6	51.1	4.1	20.0	30.0	10.0	40.0
	4年生（H19）	107.9	21.9	5.1	66.3	4.8	70.0	20.0	0.0	10.0
	5年生（H20）	91.7	21.2	4.4	41.2	3.6	10.0	25.0	5.0	60.0
早生3 (半促成) (対照品種)	3年生（H19）	123.8	26.1	4.8	59.5	4.9	56.7	6.7	0.0	36.7
	4年生（H20）	127.3	26.1	4.6	57.4	5.0	60.0	3.3	3.3	33.3
	5年生（H21）	116.3	26.1	4.2	41.2	3.9	16.7	6.7	3.3	73.3

1; 規格別割合は切り花調査した30本（キュースト（露地）はH18,20は20本、H19は10本）に占める割合。規格は茎径4.5mm以上について、花段数5段以上をL品、4段をM品とし、3段をS品、3段未満又は茎径4.5mm未満は規格外とした。

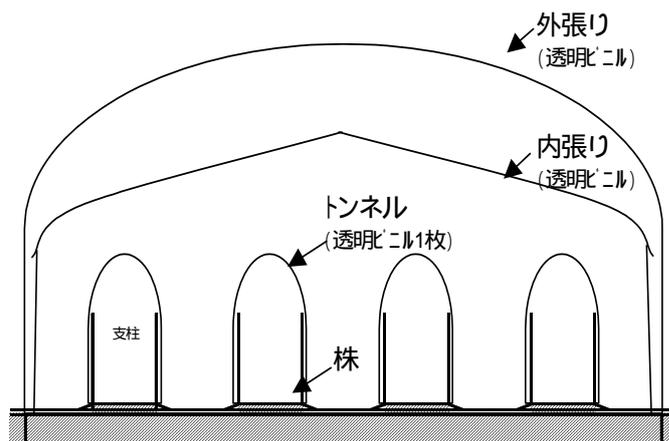


図1 ハウス被覆と保温管理

屋根ビニール＋内張り＋小トンネルの3重被覆（無加温）を基本に管理。

2月：3重被覆とし、晴天日には小トンネルを外し2重被覆。

3月：3重被覆とし、晴天日には小トンネルを外し、内張屋根面を開放。

4月：3重被覆とし、ハウスの自動換気設定温度を25とした。晴天日には内張の裾・屋根面とも開放、曇雨天時は内張屋根面のみを開放、トンネルは4月28日に外した。

5月：2重被覆とし、ハウスの自動換気設定温度を20とした。日中は内張開放。下旬から遮光した。（商品名：ら～らくネット（遮光率30%））

6月以降：1重被覆とし、ハウスの自動換気設定温度を20とした。外張りは通年被覆とし、9月上旬まで遮光を実施。